

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271100442
法人名	株式会社 アミーゴ島根
事業所名	グループホームゆりさわ
所在地 (電話番号)	松江市宍道町佐々布2130-1 (電話) 0852-66-7024

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年10月2日	評価確定日	平成20年10月31日

## 【情報提供票より】(20年 8月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	12.04

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階建て	1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,340 円		

### (4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.55 歳	最低 71 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	こなんホスピタル、国民健康保険来待診療所
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑や山で囲まれ、敷地内には果樹や植木を植樹するなど、身近に自然が感じられ、季節感を肌で感じることのできるホームである。  
開設以来行われていた地域との交流等を基に、地域密着型サービス事業所として、地域交流をより積極的に展開した結果、地域とともに行う行事開催や、住民の協力を得られる体制強化も図られており、地域に根付いたホームが出来上がっていると同時に、今後も「安心して暮らせる地域づくり」を目指し、取り組もうとする姿勢が窺えた。  
法人代表者、管理者、職員ともに「利用者の利益が第一」としたホームの理念に沿い、支援を行っている。また、ホームの運営面においても、利用者主体で、職員個々を尊重した運営がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で、改善課題はないが、自己評価や外部評価を通して、一層質の高い内容にしていこうとする取り組みがなされており、その成果も窺い知ることができる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員ともに、評価を実施する意義を理解しており、事業所の質を向上させていこうとする積極的な姿勢が見られる。前回評価時は、改善項目がなかったものの、より質の向上を目指したケアが実践され、評価を活かした取り組みが窺えた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政関係、住民、利用者及び家族等をメンバーとし、2ヶ月に1回、定期的に開催している。ホームの運営状況、行事内容、研修内容等の報告をはじめ、防災関係の協議、ホームで発生したヒヤリハット事例についても検討、議論している。 夏祭り等イベントの開催や自治会活動への参加等、これまでも地域との交流を図っていたが、この会議を活かし、さらに交流を深め、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談、苦情の担当者を明示するとともに、入居時や家族の来訪時にも説明を行っている。また意見箱の設置、個別通信の活用など、日常的に意見を言いやすい環境作りを心がけている。本人や家族等から出された意見は、職員間で十分に協議、検討したうえで対応し、ホーム全体の運営に活かすなど、サービスの提供に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民も参加する運営推進会議で、ホームの対応やヒヤリハット事例について協議している。ホームとしても認知症サポートに関する啓発を行い、安心して暮らせる地域づくりに貢献している。また、イベントの開催や自治会活動への参加など、地域との連携をより重視した活動を展開している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で理念について協議がなされ、地域に根付いたホームとなるための理念が構築されており、ホーム名の「ゆりさわ」にちなみ、「ゆ＝・・・、り＝・・・、」などと、わかりやすい方針が設定され、併せて周知しやすい内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が議論を積み重ねて創りあげた理念であり、職員への周知と共有はもちろんのこと、来所者への周知も工夫がなされ、具現化に向けての取り組みがなされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域との交流に積極的に努めており、ボランティア等も多い。また、運営推進会議は地域住民も参加して開催されており、地域に関する諸問題について議論がなされ、地域との関わり、交流を大切にしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価を実施する意義を理解しており、事業所の質を向上させていこうとする積極的な姿勢が見られる。前回評価時は、改善項目がなかったものの、より質の向上を目指したケアが実践され、評価を活かした取り組みが窺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議をホームの質向上の一環として捉えており、2ヶ月に1回、定期的で開催されている。会議では、ホームの運営状況をはじめ、職員の研修内容、ヒヤリハット事例の報告、協議など、様々なことについて協議され、これを積極的に活用している。		

島根県 グループホームゆりさわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの課題、疑問等すぐに問い合わせできる環境が つくられ、積極的な連携に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ホーム便りを発行し、新しく通信欄も設けられた個別の文書も配布されており、利用者ごとの生活をよりわかりやすく報告するよう、工夫された取り組みがなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口、苦情解決の担当職員の明示や、意見箱の設置などの取り組みがなされている。また、対応方法も分かりやすく表記され、入居時をはじめ、家族の訪問時にも説明がされている。併せて運営推進会議を活用しており、より多くの意見が反映された運営がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者ともにホームの特性を捉えており、配慮がなされた結果、職員の異動(離職)はほとんどなく、馴染みの関係が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に対し個別面接を行い、それぞれの目標を設定し、職員の意識の向上を図っている。また、外部研修への積極的な参加や、職場内研修などに、ホームとして取り組み、その目標達成を目指し支援がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、情報交換や研究を行っているとともに、職員個人でも、同業者との交流を多く持ち、情報交換を行うなど、質の向上に向け取り組んでいる。個人が得た情報は、ミーティングの際に話すなどし、全職員での共有を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が、徐々にホームに馴染めるよう、面接を重ね、馴染みの関係を構築するよう取り組まれている。また、本人や家族への訪問調査も行われ、利用者のより深いニーズを探り出そうとする取り組みがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「自由を奪わない利用者本位の支援」という方針に全職員の意識統一が図られており、調査当日も、利用者が思い思いに過ごしている場面が多く見られ、その中でお互いに支えあう関係を築くような取り組み展開されていることが窺えた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の準備や後片付け、マッサージチェアに座るなど、利用者が思い思いに過ごす場面が多く見られた。利用者の意向が十分に把握され、大切にされており、それを基本として、自由を奪わないケアが実践されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族等の意向を捉え、それを取り入れた計画の作成がなされている。また、来訪する家族との協議を多く持ち、より意向に沿った計画となるよう取り組まれている。あわせて、職員間の周知も徹底されており、ホーム全体として支援していくシステムが構築されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをはじめ、状態の変化に伴ないその都度計画の変更がなされている。見直しや変更の際には、家族への確認も行われ、同時に職員に対しての周知も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況、希望に応じて、通院や送迎等必要な支援を行っている。また、一緒に食事をしたり、居室での宿泊を受け入れるなど、柔軟な対応がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人・家族等の希望に沿い、かかりつけ医でも医療が受けることができるよう支援している。また常時連絡ができるような関係も築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについては、入居時に十分な説明が行われたうえで、本人及び家族の希望を尊重し対応している。また、利用者、家族の意向の現状を把握しようと、随時協議が行なわれ、実際に対応するなど、全員でその方針を共有した上での取り組みがなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活歴は十分に把握されており、それぞれに合った声かけ等がなされている。また、記録の保管、写真の使用など、プライバシーの保護には十分な配慮がなされ、尊厳を損なうことのないようなケア提供が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有スペースの和室で横になりながらテレビを見たり、趣味活動を行ったりと、それぞれが自由に過ごしている場面が多く見られた。職員も個々の意思やペースを尊重し、ゆったりとした時間の中で生活できるよう支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み食、ミキサー食、治療食等、利用者それぞれの状況に合わせ、対応している。また、利用者と共に準備、食事、片付けを実施しており、食事の際の雰囲気作りにも配慮がなされ、楽しみながらの食事風景が見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や、1日おきなどそれぞれの希望に合わせて実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、調理の手伝いや後片付け、掃除など、力を発揮できるよう役割を見出している。また、敷地内にあるぶどう棚での収穫をはじめ、遠くへの外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームとしても、近くの大型スーパーでの買い物をはじめとし、地域の祭りへの参加など、外出する機会を多く持っている。また、利用者個々の希望を汲んでの外出の機会も設けるなどし、対応がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面への配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、職員への周知徹底を図るとともに、運営推進会議で、地域住民等にも説明がされ、協力が得られるよう、体制作りがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を基調とした共用空間は、空気の淀みもなく、音量、光量ともに、利用者に不快感を与えないよう調節されている。また、テーブルなど、使い込まれた品が置かれており、落ち着いた雰囲気の中、生活感のある空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する前に使用していた箆笥、お茶道具など、馴染みの品の持込が多く、それぞれ利用者の好みに合わせ居心地の良い居室作りがなされている。あわせて、それぞれの趣向に合わせ、生け花を飾ったり、趣味活動で作成したものを飾るなど、利用者の意に沿った居室作りがなされている。		